

はじめに

第31期国立市公民館運営審議会（任期：2016年11月～18年10月。以下、公運審）は、第30期公運審の答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」（2016年10月提出）の提案の一つである「公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み—」を受けて、「みんなで話そう公民館講座——市民と職員で『学び』をふりかえる会——」（以下、「公民館活動をふりかえる会」）を2018年1月7日に開催しました。

第30期公運審の答申においては、公民館における事業評価の目的は、公民館運営がさらに市民のニーズに応えるために改善を図ることであり、従来の参加者数をはじめとした評価だけでなく、学習のダイナミズムをどのように可視化できるかが大きな課題であるとし、以下のような視点が示されました。

- ・公民館において事業評価を行なう場合には、社会教育の場で何が達成されたのかを把握する必要がある。
- ・公民館における事業評価は、職員が自らの職務のあり方を振り返り、その専門性の向上に資するものでなければならない。
- ・教育の成果は、教育を受けた人に生じた変化によって把握されるため、中長期的な時間軸の中でしか、最終的な評価を下すことができない。
- ・成人を対象とした教育活動においては、教え手や事業の企画・実施に関わる職員などに生じた変化に着目する必要がある。
- ・公民館の事業評価を行う際には、学習者のその後の活動がもたらす波及効果についても可能な範囲で把握することが望ましい。

そうした視点から「公民館活動をふりかえる会」が以下のような位置づけで提案されています。

- ・公民館事業の水準の向上のために、具体的な事例を参加者・利用者、職員などの当事者のほか、行政管理者を含めた関係者との対話や議論を促す仕組みが必要になる。そこで、公運審委員をはじめとした市民の参加を主体とした評価の取り組みを提案したい。

第31期公運審では、第30期の答申を検討するなかで、館長より、第30期答申で示された提案の一つ、「2. 公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み」の具体化に向けた協議と実施・運営をお願いするとの提案を受けました。「ふりかえる会」の目的については、「公民館の事業評価においては、現代的な課題に取り組むための事業増加や職員の入れ替わりによる経験年数短期化などさまざまな要因によって、事業実施後の振り返りのための十分な時間が確保できず、また、現状の事務事業評価における指標では社会教育機関である公民館の役割が十分に評価できない現状や課題があるため、公運審での検討を中心に公民館

職員とともにふりかえる会を実施したい」としています。また、その方法として、「平成 28 年度の主催事業のうち特徴的な事業事例をいくつか選択し、参加者がグループに分かれて意見交換し、その発表を受け助言者等を交えて公民館主催事業を振り返り、課題や継承すべき点を明らかにする」とし、他の方法も含めて公運審に検討をお願いしたいと説明を受けました。

それを受けて公運審では議論を重ね、目的を今後の公民館事業をよりよくしていくためであることと確認し、市民・職員等が一堂に会して「研究」する初めての試みとして、「公民館活動をふりかえる会」を開催することとしました。このたびの「公民館活動をふりかえる会」は、公民館のさまざまな活動の一部である主催事業（講座）について、その中から4つの事例を選び、①公民館事業をより良くするため、職員が市民と共に事業をふりかえる機会をもち、成果や課題を明らかにするため、②市民が多角的な視点を得て、学びの意味をとらえなおすため、③公民館の社会教育機関としての役割を共有するためという目的で開催しました。

公民館事業（学習プロセス）を、「市民（参加者）」と「公民館職員」が共同で振り返り、振り返りの中で出された事業の成果・課題が語られたことを記録化するために、この記録集を作成いたします。

開催当日は5ページの【資料A】にあるようなプログラムで、第1部・第2部・第3部分けて進めました。ふりかえる会の「目的」を踏まえ、「ふりかえる基本的な観点」に沿って「職員の報告」とグループでの「話し合い」とともに進めました。

・第1部「公民館職員が『講座』をふりかえる」で、公民館事業全体の体系とAからDまでの4事例が職員から報告されました。記録集では、「Ⅰ 職員の報告」として、当日映写されたパワーポイントと職員の説明の要旨を掲載しています。

・第2部「各グループに分かれて『学び』をふりかえる」として、参加者がAからDまでの4事例ごとにグループに分かれ、公運審委員がファシリテーターを務めて話し合いを行ないました。記録集では、各グループに参加した公運審委員がまとめた「Ⅱ 話し合いのまとめ」として掲載しています。

さらに記録集では、開催後の「Ⅲ 職員のその後の感想」「Ⅳ ふりかえる会アンケート結果」「Ⅴ 各委員の感想」を掲載しています。

2018年1月に開催された「ふりかえる会」を、どのように意義づけ発展させていくか、今後の市民の皆さんの活発な議論を期待いたします。

ふりかえる会の取り組み

——公運審での協議と実施・運営の経緯

1. 前期の公運審答申

○2016年10月 第30期公運審（2014年11月～2016年10月）が答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」提出

- ・本答申における公民館の事業評価に向けた取り組みの提案
 - 1 公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み—
 - 2 公民館アニュアルレポート—年次報告書作成の取り組み—

2. 今期の公運審での議論

○2017年4月より、第31期公運審定例会で、第30期公運審答申の読み合わせと意見交換
・現状の事務事業評価（いわゆる行政評価）における指標では、社会教育機関である公民館の役割が十分に評価できない。

・現状、職員にとって事業実施後のふりかえりのための十分な時間が確保できないという課題がある。ゆえに、事業実施後のふりかえりのための時間を確保する目的で取り組むのがよい。基本的には職員がふりかえるのだが、市民とともに行う「参加型評価」がよい。

- ・公民館の役割を十分に表現する（発信する）目的で取り組むのがよい。
- ・「教育」に短期間での評価はなじまない。

などの意見あり。

○2017年7月 館長より、第30期答申で示された提案の一つ、「公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み」の具体化に向けた協議と実施・運営をお願いする、との提案がなされる。

3. 企画・準備の経過

○7月 世話人会（4名・定例会に企画提案する役割）発足

- ・2回の世話人会のあと、方向性と「プレふりかえる会」を提案
- ・「ふりかえりの会」企画のねらいとして、職員と市民と一緒に主催事業をふりかえる、よりよい事業企画・運営のために参加者が一堂に会して「研究する」試行の場である、「評価」という言葉のもつイメージを超える試みが「ふりかえる会」であり、事業の価値や課題を言葉にして共有する、ことを世話人会が提案、定例会で確認

○8月 「プレふりかえる会」（1事例で職員・公運審委員がトライアル）開催

- ・職員に講座事例「認知症とともに生きる」のふりかえりを発表してもらい、そのあと市民（トライアルでは公運審委員）とともに話し合う。

○9月 トライアルをもとに、世話人会が進め方を提案

○10月 定例会で議論

○11月 世話人会より、タイトル・位置づけ・目的等を提案、定例会で確認

- ・タイトル＝「みんなで話そう公民館講座——市民と職員で『学び』をふりかえる会——」
- ・位置づけ＝現状として職員が市民と一緒に講座をふりかえる時間がないので設定した。「評価」という言葉は使わず「ふりかえる会」という言葉を使う
- ・目的：
 - ① 公民館事業をより良くするため、職員が市民と共に事業をふりかえる機会をもち、成果や課題を明らかにするため
 - ② 市民が多角的な視点を得て、学びの意味をとらえなおすため
 - ③ 公民館の社会教育機関としての役割を共有するため
- ・職員より提案の、ふりかえる4事例を確認（事例選択は、初めての試みであるので、公運審からは分野が重ならないようにと要請し、事例講座は職員より提案）
- ・公民館だより、チラシにて広報開始。
- 12月 世話人会と担当職員で打ち合わせ（4事例）を2回に分けて行う。
 - ・定例会に「ふりかえる基本的な観点」〔資料A参照〕を提案・確認
 - ・打ち合わせで、「ふりかえる基本的な観点」を満たしているか、参加者に伝わりやすいか等を検討
 - ・公民館だより、チラシにて広報。個別の参加呼びかけは今回は時間不足のため、行政管理者には特段せず、各委員が呼びかけることとする。

4. 開催後の経緯

- 1月7日 開催
 - ・参加者 45名 進行〔資料A参照〕
- 1月9日 定例会で感想を出し合う。
- 1月23日 世話人会で今後のまとめ方などを検討
- 2月3日 東京都公民館研究大会にて第2課題別集会「公民館の価値をみつめなおす——住民とともに公民館を『評価』する実践」に、松本市とともに事例報告（助言者：越村康英氏）
- 3月 公民館だよりに開催報告を掲載
 - 総括および記録集について検討開始
- 5月 副委員長提案の記録集構成案をもとに検討
- 7月 記録集構成案を確認し、各グループの討議記録等の作成に入る。
- 8月 討議記録・アンケート等をもとに総括の議論。記録集の編集作業に入る。
- 9月 記録集の原稿案の検討
- 10月 記録集の原稿確定

国立市公民館主催・第31期国立市公民館運営審議会企画・運営
みんなで話そう公民館講座—市民と職員で「学び」をふりかえる会—
プログラム 2018年1月7日(日) 14時00分 - 17時00分

全体司会：龍野（公民館運営審議会委員・世話人）

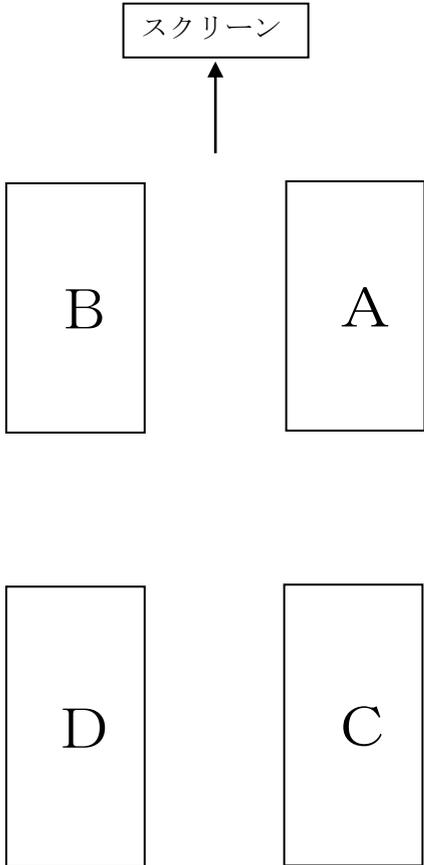
あいさつ・進め方について 【富田公運審委員長】 14時00分～

*この会の3つの目的
i) 公民館事業をより良くするため、職員が市民と共に事業を
ふりかえる機会をもち、成果や課題を明らかにする。
ii) 市民が多角的な視点を得て、学びの意味をとらえなおす。
iii) 公民館の社会教育機関としての役割を共有する。

第1部 公民館職員が「講座」をふりかえる 14時05分～

- ◎ 公民館事業全体の体系 【石田館長】
- A くにたちブッククラブ（文学講座） 【中根】 <テーブルA>
- B ふれあいひろば（世代間交流事業） 【平尾】 <テーブルB>
- C 認知症とともに生きる（認知症映画会） 【井口】 <テーブルC>
- D 市制施行50周年記念事業（公民館企画・学長対談） 【高下】 <テーブルD>

*ふりかえる基本的な観点
① 公民館事業全体の中の位置づけ
② なぜ、この講座を行ったのか？（目的・経緯）
③ どんな講座だったのか？（内容・展開）
④ どんな成果や学びにつながられたか？
⑤ 今後の課題や大切にしたいこと
⑥ みなさんとふりかえって考えたいこと（課題）



休憩（約10分間）

第2部 各グループに分かれて「学び」をふりかえる 15時～

※自分が話しあいたいテーブルに移動して、全員で議論します。

※各テーブルには、発表した担当職員、司会役の公運審委員、
講座に参加した市民／参加しなかった市民がいます。

- (1) 参加した市民の声
- (2) 講座の「学び」を深める（各グループで適宜休憩）
- (3) 課題についての話し合い

第3部 みんなで「今日の会」をふりかえる 16時20分～

※各グループの発表とまとめ。

※終了後、アンケート記入をお願いします。